科目名	人間と哲学　　Introduction to Philosophy						
科目担当者	中本 幹生　　NAKAMOTO Mikio						
単位数	2	配当年次	1年	授業形態	講義	開講学期	前期
履修学部・学科［区分］ 他学部他学科履修	法学部・法律学科［総合教育科目　人間形成］ 経営学部・経営学科［総合教育科目　人間形成］					ディプロマポリシーとの関連	(1)（4）
授業の概要	この講義では、現代社会における具体的な諸問題を例にとり、哲学における様々な基礎的な概念装置を用いてそれについて考えます。その諸問題とは、例えば障がい者差別や女性差別の問題、働く意義とは何か、家族のあり方、死刑制度の是非、富める国と貧しい国の格差の問題、環境問題、民主主義のあり方、感情と理性との関わり、宗教と国家の関係などです。これらはあくまでも例にすぎず、このような問題に取り組むことによって目的とするのは、哲学における基本的な思考法を身につけること、つまり、みずから主体的に思考する力を養うことです。さらに、現代社会の諸問題について、一つのものの見方ではなく、多様な見方ができるようになることです。できるだけ多様な考え方、ものの見方に触れることで、受講者は自分で考える機会を得ることができるでしょう。						
授業の到達目標	①事実と価値の問題、理性と感情の関係、平等とは何か、責任とは何か、多文化主義、個人主義と共同体主義など、哲学的な基本概念を正しく説明することができる。 ②働く意義とは何か、差別の問題、死刑制度の是非、経済的格差の問題、環境問題、民主主義のあり方、感情と理性の関係、家族のあり方、宗教と国家の関係などの現代社会の諸問題について、自分の考え方を明示することができる。 ③ある問題やテーマについて一つのものの見方ではなく多角的な見方ができるようになる。						
授業計画・内容	1	どこから差別になるの？―障がい者差別の問題―					
	2	どこから差別になるの？―女性差別の問題―					
	3	悲しみをどう乗り越える？―グリーフ・ケアを例に―					
	4	悲しみをどう乗り越える？―被害者遺族の感情の問題を例に―					
	5	どうして働くんだろう？（1）―互恵性の原理とベーシック・インカム―					
	6	どうして働くんだろう？（2）―能力の発揮と他者承認―					
	7	正義の暴力なんてある？（1）―死刑制度の是非を例に―					
	8	正義の暴力なんてある？（2）―人道的武力介入の是非の問題―					
	9	これって僕らの責任？（1）―貧困国への援助の問題―					
	10	これって僕らの責任？（2）―戦争責任の問題―					
	11	これって僕らの責任？（3）―環境問題―					
	12	宗教ってこわい？（1）―宗教と国家の関係―					
	13	宗教ってこわい？（2）―宗教と多文化主義―					
	14	民主主義でどこまでいける？					
	15	家族の問題に口出ししちゃだめなの？―法と自由の関係―					
授業外学修 (事前学修)	毎回、授業範囲を予習し、専門用語の意味等をあらかじめ調べておくこと（毎週 2 時間程度）						
授業外学修 (事後学修)	毎回、授業内容について要点を整理し、不明な箇所を調べておくこと（毎週 2 時間程度）						
成績評価方法・評価比率・到達目標との対応	成績評価方法			評価比率		到達目標との対応	
	定期試験			100%		①②③	
成績評価基準	秀：（評点 90 点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合 優：（評点 80 点～89 点）到達目標を高い水準で達成している場合 良：（評点 70 点～79 点）到達目標を一定の水準で達成している場合 可：（評点 60 点～69 点）到達目標を最低限の水準で達成している場合 不可：（評点 60 点未満）到達目標に達していない場合						
教科書	新名隆志・林大悟編『エシックス・センス』（ナカニシヤ出版、2013 年）						
参考文献	授業中に適宜指示する						
その他	各回ごとの授業内容は、授業の進行に応じて一部変更することがあります。						